



第56号

梅苑会報



福島県立福島高等学校



※梅の再恵与にご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。



福高の樹木

「もっとも遠いはずの記憶が、年齢を積むうちに、むしろもっとも近い風景として、いつかじぶんのすぐそばに立ちあらわれてくる」と書いたのは高十回卒の詩人長田弘である。（長田弘全詩集あとがきより）

令和五年の初夏、季節外れの猛暑の影響か、本校の一本の梅の木が突然樹勢を落とし、枯れるということがあった。太宰府天満宮からおくれた「肥後の駒止」である。福高の梅の中でもいち早く花を咲かせる紅梅であった。多くの方々のご協力を得て、再び「肥後の駒止」は再恵与という形でいただくことが叶い、福岡からの長旅を経て、現在前庭に大きくつばみを膨らませている。再恵与に当たり太宰府天満宮に足を運んだ

際には、樹木の細やかな手入れや土づくりのお話を伺った。新しい植樹にあたっては、福岡の地からともに運ばれた炭と杭が地中深く埋められ、打ち込まれている。一方、生徒の手で少しでも福高の樹木の世話をしようという声上がり、集まった有志生徒たちが寒空の下、思い思いの樹木の根元を掘り肥料を施した。天満宮からの梅はもとより、玄関前のサクラ、クロマツ、学校を取り巻く多くの梅、梅苑会館のカツラ、そしてグラウンドに立つ大ケヤキなど。その中のいくつかは、思いの込められた記念樹である。

明治三十一年に梅章が制定されたが、古い写真を見るとグラウンド沿いの樹木はサクラだったこともあるようだ。梅苑は初めから

梅苑ではなかったとすると、梅章の元に集った人々の思いが、梅の木を増やしてきたのかもしれない。創立八十五周年時には七十余本になったという。現在は六十本弱である。

空に向かってすがすがしく枝を伸ばすケヤキの姿を思い起こす同窓生は多いのではないだろうか。昭和六年の写真には、はっきりと確認はできないがグラウンド沿いの並木の中に他よりちょっと高いぐらいのケヤキらしい姿が認められるだろうか。長田はケヤキを「うつくしい樹冠をもつ、孤高の木」と書いた（詩の樹の下で）より。今日もグラウンドには生徒の声が響いている。

様々な樹木が福高生の風景を作っている。

column

福高生の自由

私事になりますが、よろしければお付き合いください。先日、福島高校で3年間数学を教えていただいた恩師が亡くなりました。「あかざの香りうつろへる」で始まる「捷の曲」をこよなく愛し、梅苑祭では閉祭式で全校生に向けて応援のエールを切ってください先生でした。上手に水を向ければ、数学のことは脇において、人生について語り始めます。私たちは数学の授業が始まる前、今日はいかにして先生に話をしてもらおうかと、作戦を練ったものでした。

先生はお気づきになってみませんか、何度も同じ話をなさいます。福島高校の「自由」について。「福島高校生の自由は、なんでもありの自由ではない。自主、自律、自らがなすべきことを自らで選択できることの自由だ。」それは、福島高校の長い歴史の中で、先人たちからずっと継承されてきた精神で、教壇で先生は「まず何よりも、福島高校生にこの精神を伝えなければならぬ」とお考えだったのかもしれない。「自由」であることがややすると難しくなっている現代です。いろいろなものが上手にお膳立てされ、決断は自分でしたものなのか、自分でしたように思わされているものなのか、その判断も難しい時があります。「自由」とは、「福島高校生にとっての自由」とは、それを今日の前にいる高校生に伝えるにはどうすればいいのか。恩師の訃報を聞き、高校時代のお話を思い出しながら、そんなことを考えていました。

令和7年度予算書（令和6年9月1日～令和7年8月31日）

令和7年度 一般会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	291,018		
(2)卒業生入会金	798,000	R4年度入学生（266名×3,000円）	
(3)卒業生年会費	266,000	R4年度入学生（266名×1,000円）	
(4)同窓生年会費	3,000,000	同窓会会員（約1,200名×2,000円、ゆうちょ銀行振込も含む）	
(5)雑収入	50	利息	
(6)繰入金	500,000	母校後援会会計より	
合 計	4,855,068		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
1.事業費	4,260,000	
(1)総会費	450,000	定期総会開催に関する費用
(2)会議費	60,000	第1回役員会、第2回役員会
(3)梅苑会報費	3,300,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(4)会費納入費	450,000	コンビニ振り込み手数料
2.運営費	462,000	
(1)事務諸費	2,000	文具費
(2)交際費	40,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、その他
(3)慶弔費	0	
(4)通信費	10,000	切手代
(5)旅 費	400,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(6)雑 費	10,000	
3.予備費	133,068	
合 計	4,855,068	

項目間の流用をお認め願います。

令和7年度 母校後援会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	116,564		
(2)卒業生年会費	266,000	R4卒業生（266名×1,000円）	
(3)同窓生年会費	3,000,000	同窓会会員（約1000名、ゆうちょ銀行振込も含む）	
(4)雑収入	50	利息等	
合 計	3,382,614		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	250,000	HP更新、母校への助成等
(2)部活動助成	200,000	全国大会出場の一部への激励金
(3)卒業記念費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)一般会計	500,000	一般会計への繰り入れ金
(5)太宰府梅基金	100,000	太宰府梅基金への繰り入れ金
(6)梅苑会館維持管理費	1,300,000	梅苑会館維持管理への繰り入れ金
(7)会員名簿管理費	720,000	令和6年度分
(8)予備費	32,614	
合 計	3,350,000	

項目間の流用をお認め願います。

令和7年度 梅苑会館維持管理会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	4,686,499		
(2)積立金	1,300,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	300		
合 計	5,986,799		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	5,500,000	外部修繕（屋上防水・外壁）
(2)備品費	100,000	
(3)予備費	386,799	
合 計	5,986,799	

令和7年度 太宰府梅基金会計予算書（案）

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	1,858,338		
(2)同窓会梅基金	100,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	1,958,388		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅交際費	640,000	旅費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	240,000	肥料・消毒代等
(3)予備費	1,078,388	
合 計	1,958,388	

項目間の流用をお認め願います。

令和7年度 一六回奨学会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	3,000,834		
(2)同窓会寄付金	0		
(3)雑収入	386	利息等	
合 計	3,001,220		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)交付金	3,000,000	令和6年度交付金（6名）
(2)予備費	1,220	
合 計	3,001,220	

項目間の流用をお認め願います。

令和6年度決算書（令和5年9月1日～令和6年8月31日）

令和6年度 一般会計決算書

収入決算額・・・4,930,958円 支出決算額・・・4,639,940円 次年度へ繰越額・・・291,018円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	1,232,526	1,232,526		
(2)卒業生入会金	816,000	783,000	R3年度入学生（261名×3,000円）	
(3)卒業生年会費	272,000	261,000	R3年度入学生（261名×1,000円）	
(4)同窓生年会費	2,200,000	2,300,000	会員（911名）	
(5)雑収入	50	54,432	利息、その他	
(6)繰入金	300,000	300,000	母校後援会会計より	
合 計	4,820,576	4,930,958		

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,970,000	4,123,196	
(1)総会費	680,000	890,710	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	2,951,426	梅苑会報印刷、郵送代等
(3)母校後援費	290,000	281,060	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	0	0	
2.運営費	775,000	516,744	
(1)会議費	200,000	58,550	第1回役員会、第2回役員会
(2)事務諸費	5,000	1,650	封筒等
(3)交際費	100,000	39,000	関東梅苑会総会お祝い
(4)慶弔費	20,000	0	
(5)通信費	40,000	38,384	書類送付代、切手代
(6)旅 費	400,000	379,160	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	10,000	0	
3.予備費	75,576		
合 計	4,820,576	4,639,940	

令和6年度 母校後援会会計決算書

収入決算額・・・2,170,044円 支出決算額・・・2,053,480円 次年度へ繰越額・・・116,564円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	286,964	286,964		
(2)卒業生年会費	272,000	261,000	R3年度入学生（261名×1,000円）	
(3)同窓生年会費	1,300,000	1,000,000	会員（643名）	
(4)雑収入	50	622,080	柔道部OB会、寄付金、利息	
合 計	1,859,014	2,170,044		

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	200,000	568,480	同窓会HP利用・更新、賞状名入れ、記念品、応援歌現代語訳集
(2)部活動助成	200,000	170,000	全国大会出場助成
(3)一般会計	300,000	300,000	一般会計への繰り入れ
(4)太宰府梅基金	100,000	0	
(5)梅苑会館維持管理費	300,000	300,000	梅苑会館維持管理への繰り入れ
(6)会員名簿管理費	720,000	715,000	会員データ管理業務
(7)予備費	39,014	0	
合 計	1,859,014	2,053,480	

令和6年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書

収入決算額・・・4,686,499円 支出決算額・・・0円 次年度へ繰越額・・・4,686,499円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	4,386,191	4,386,191		
(2)積立金	300,000	300,000	同窓会会費（母校後援会会計より繰り入れ）	
(3)雑収入	50	308	利息	
合 計	4,686,241	4,686,499		

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)修繕費	500,000	0	
(2)備品費	300,000	0	
(3)予備費	3,886,241	0	
合 計	4,686,241	0	

令和6年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・2,730,941円 支出決算額・・・872,603円 次年度へ繰越額・・・1,858,338円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	2,055,536	2,055,536		
(2)繰り入れ金	100,000	0		
(3)雑収入	50	675,405	再恵与寄付金残金、利息、お祝い	
合 計	2,155,586	2,730,941		

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)飛び梅交際費	550,000	637,312	旅費、接待費、贈答品
(2)飛び梅管理費	70,000	235,291	消毒、拔根、整地、施肥
(3)予備費	300,000	0	
(4)繰越金	1,235,586	0	
合 計	2,155,586	872,603	

令和6年度 福島高校同窓会一六回奨学会会計決算書

収入決算額・・・5,500,834円 支出決算額・・・2,500,000円 次年度へ繰越額・・・3,000,834円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	5,500,448	5,500,448		
(2)寄付金	0	0		
(3)雑収入	50	386	利息	
合 計	5,500,498	5,500,834		

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)交付金	3,500,000	2,500,000	令和6年度交付金（5名）
(2)予備費	2,000,498	0	
合 計	5,500,498	2,500,000	

新年を迎える度に様々な目標を立てますが、年を重ねて参りますと「今更やってみても」という言葉が出がちです。今年は気持ちを新たに「今から、やってみよう」に切り替えることにいたしました。

皆様はどのようなお気持ちでスタートされたでしょうか。さて、東日本大震災から3年後の平成26年2月に生徒たちの希望のシンボルとして太宰府天満宮より恵与を受けた5本の梅の木の本「肥後の駒止」が令和5年夏に突然立ち枯れました。そこで前例のない恵与をいただきました太宰府天満宮と梅花を徽章とする本校との絆に思いを馳せ、梅の木の新恵与を太宰府天満宮にお願ひし、多くの同窓生に特別寄付をいただき、再び令和6年3月20日に再恵与をいただくことができました。

初めての恵与から丁度10年目の令和の飛梅となりました。皆様方のご理解ご協力に感謝申し上げます。今後も母校その目で、芳見弘一副会長がリーダーの「会費等納入方法検討プロジェクトチーム」から会費納入の利便性向上のため検討を重ね、①会費等の納入にコンビニ振込を導入する、②振込金額は年会費2,000円、後援会費3,000円を合わせて5,000円を定額とする、③定額以上の振込に対応するため現在のゆうちょ振込も可能とする等の提案をいただきました。総会承認も得られましたので今回からこの方法を取らせていただきます。皆様のご理解ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。さらに今年度事業として一昨年「梅苑会館修繕検討プロジェクトチーム」の提案中、緊急を要するとされた屋上防水・外壁修繕を実施いたします。

このように今後も同窓生の皆様とともに随時やれるところから「会員の連絡協調」と「母校の発展援助」の向上を図ってまいりたいと存じます。

末尾となりますが本年も福島高校と、同窓生の皆様に幸多からんことを祈念いたします。

同窓会会長
芳賀 裕
(高校第22回卒)

今から、
やってみよう



福高
同窓会総会

令和6年度「福高同窓会総会」は11月15日（金）18時よりホテル福島グリーンパレスを会場に開催されました。昨年度同様に、多くの会員の皆様に足をお運びいただき、総会、懇親会と真剣かつ和やかに賑やかに会が進みました。

総会に先立ち記念講演として、高校30回卒、学校法人酪農学園理事長でサッポロビール元社長でもあります高島英也さんをお招きし、「私の今の福島高校」と題したご講演をいただきました。高校時代の思い出や、黒板に書かれた数学の難問を授業時間をかけて解ききった先生のお姿など、当時の福島高校の「名物先生」たちのお話があり、先生方から受け取られたお言葉や励ましをお伝えいただきました。

総会では、会長・学校長の挨拶があり、各議案の承認がなされました。懇親会の最後は、参加者全員で校歌を斉唱し、福島高校の今後の発展を祈念しました。

関東梅苑会だより

それぞれの心の福島高校



学年幹事会&忘年会 2024年12月19日(木)・U-cafe(台東区上野、50回松岡さんの店)

昨年末、関東梅苑会の学年幹事会&忘年会を開催しました。昨春の合同同期会の総括と今春の総会に向けた意見交換を行い、賑やかな会となりました。

忘年会の参加者から高校時代の思い出や会のことを寄稿していただきました。昭和・平成・令和の3つの時代の福高を感じていただければ幸いです。

紺野 信壽(6回)

音楽の三浦とみ子先生は「おばあちゃん」でしたが現役バリバリ、最初に教わったのがシューベルトの「楽に寄す(Die Musik)」それから「帰れソレントへ」、トステイの「セレーナータ」ほか。鑑賞は手回し蓄音機とSPレコードでベートーヴェンやチャイコフスキーのシンフォニー等。あんなに楽しい授業はありませんでした。同級生の長澤康治君に誘われて合唱部に入りました。合唱コ



最年長・紺野さんと鈴木美慧さん、元応援団長

ンクールでは先生の指揮で東北大会で何度も優勝し、全国大会に出場して合唱王国福島の元祖になったのが私たちでした。

合唱コンクールで、福島高校が初めて東北代表になったのが昭和26(1951)年。それから50年を経て昔の仲間が集まっては歌っていました。本格的な合唱で演奏会をやるということになり、団の名前は全国コンクールで準優勝した時に歌った「小夜曲」の作曲者の名前から「コール・マルシュナー」としました。その最初の演奏会は2008年10月、東京駒場エミナースで、高校の初代合唱部音楽部)部長だった山川新二さん、二代目の星彰郎さん、慶応ワグネル男声で活躍した下田博郎君などが名前を連ねています。

このグループは震災直後の福島で罹災者応援の演奏会を行ったのをはじめ、東京と福島で10数回の演奏会を持ちました。コロナ流行の直前2020年2月14日、豊洲ビックセンターで催されたコーラスフェスティバルでの演奏まで続きましたが、コロナの大流行やメンバーの多くが他界して活動が止まっています。若いコーラス好きが引き継いで、続けてくれることを大いに期待しています。

箱崎 一彦(23回)

1971年3月の卒業で満72歳です。福高時代の3年間は当時の伊達郡保原町(現伊達市)から通っていました。バス通で保原から約45分、職安前で降りて学校まで徒歩でした。車酔いが酷く途中で自転車通学に変えた事もあります。当時流行りのドロップハンドルの3段変速自転車でした。変速機付きと言っても高子から月の輪にかけての坂道が大変でした。行きは下りで楽なのですが帰りは当然上りになります。傾斜がきつく部活(剣道部)の疲れた体には堪えました。また、当時は舗装もされておらず砂利道でした。その後、福大経済学部へ進学しましたが引き続き保原から通っていました。大学卒業後は当時の

富士銀行(現みずほ銀行)に就職しましたが、何と配属先は福島支店。この時に御山町にあった独身寮に入寮し、20年間住み慣れた保原から離れました。今年で保原を離れて丁度50年、何故か保原時代をふと懐かしく思い出す今日この頃です。私にとって保原は、小・中・高・大を過ごしたかけがえのない故郷なのです。

塚原 真司(24回)

普段なら出会うことのない世代を超えた多くの先輩や後輩が集う。刺激を受けたり懐かしさに心を満たされたりする。元応援団のリードのもと大声で校歌を歌った時には胸がいっぱいになる。これが関東梅苑会である。会社員時代は転勤が多かった。札幌から東京に戻ってきた時に中学校の時より同期だった油井君から「今年の総会は当番年次なので手伝ってほしい」と連絡があり軽い気持ちでOKした。これが会への入り口となり20年近くの関わりとなった。機会を作ってくれた彼には感謝であるが、すでに他界して直接伝えられないのが残念である。

高校時代は生物部に所属し土湯温泉の奥にある男沼のプランクトンを調べていた。クラス担任で部の顧問でもあった大越先



右から箱崎会長、塚原・鈴木両副会長

生がゴムボートを買ってくれてこれを担いで登り沼に浮かべたことなどを思い出す。総会にも来賓として来ていただいた。恩師いまだ忘れがたくである。会の運営には苦勞や葛藤もあるだろうが、同窓というだけで皆が集まれるのが関東梅苑会である。栄えよ永く。

鈴木 秀明(29回)

はて、高校時代は何してたっけ?と考えると、なかなか思い出せない。サッカー部しかほぼ記憶にないですね。

当時は野球部とハンドボール部とグラウンドを分け合い、その隙間を縫ってラグビー部が走り抜けていく、という環境で練習していました。時折野球部から大きな声がかかると、みんな伏せてボールを避け、フ

島田 久(31回)

高校時代で思い出することはいっぱい。下駄が自転車のペダルに挟まるたびに足が地面につかず焦ったこと、吾妻おろしに向か

って自転車走をこいで帰宅していたこと、2年の梅苑祭でクラスで作った大きな模型がNHKで放送されたこと、福武書店の模試、担任の斎藤一郎先生、席替えが一度もなかったこと、先生が都合でない時の授業力カット(級長が後の授業の順番を繰り上げ交渉をして早く帰宅)

「継続は力なり」(山本敬二郎校長のことば)、共通一次試験元年、等々。華々しいものは一つもないけどどれも今の自分につながっていると思う。大学の友や家族とも共有できない片田舎の記憶は、同じ学び舎に通い、同じ校歌を歌ってきた人たちだけに分かってもらえ

佐藤 智宏(39回)

福高時代を振り返ると、やはり柔道部での経験と梅苑祭が印象深いです。入学した時の部活

見学で、梅苑会館の壁に木の札に墨で書かれた歴代の柔道部の先輩方の名前が並んでいるのを見た時に、この学校の歴史の深さに感動し入部を決めました。寒い冬の日の練習は特にキツかったですが、3年次に自分の名前が掲げられた時はひととき嬉しかったのを覚えています。その後火災で焼失してしまったと耳にした時はとても悲しい想いをしたのもまた覚えています。梅苑祭ではクラスごとに企画を考え、準備に奔走したこと、フィナーレでクラスの仲間達と肩を組んでテーマソングを熱唱したのも懐かしい1コマです。



戸松前会長と赤井さん

また、福高ならではの校風として、自由な雰囲気の中にあって「自主自律」の精神が根付いており、先生方も個性的でユニークな方がたくさんいらっしゃいました。放課後には友人たちと遊佐商店に立ち寄り、「買い食い」をしながら語り合った時間でもまた楽しい思い出です。これからも同窓生の皆さんとのつながりを大切にしながら、会を盛り上げていきたいと考えております。

赤井 雅(48回)

自分はいつから関東梅苑会に参加したのか調べてみたら、2012年だった。東日本震災の翌年で、同郷の仲間と絆を再確認し、何か地元福島に恩返し

のできないかと考えていた日々の中で、関東梅苑会の存

在を知ったように記憶している。その後事務局の一員として、facebookで若手にアプローチしたり、芋煮会を企画して合同同期会以外に集まる場を設けたり、微力ながら会に尽力してきた。

在籍12年といったら在学期間の4倍である。関わり続けたいと思わせる、関東梅苑会の魅力とは何だろう。ひとつ挙げるとしたら、後輩たちとの交流だ。もちろん先輩たちとの交流も得るものはたくさんあるが、毎年後輩たちが社会で活躍している姿を見るのは、誇らしく刺激的だ。自分も頑張ろうという気持ちになる。もうひとつは、なんといっても「あかざの香り」を全力で歌えることだろう。年に一度の合同同期会のクライマックス。10代から80代までの元梅校生たちが歌う「あかざの香り」は圧巻である。正式名称は「捷の曲」。読めない。だがそんなことはどうでも良い。とにかく思いっきり「あかざの香り」を歌うために、今年も春の合同同期会に行くのだ。

松岡 知宏(50回)

学習院大学法学部と大東文化大学法科大学院を修了し、コンサルティング会社を経て35歳で独立。現在、ボードゲームカフェ



令和6年9月6日（金）ホテルJALシティ仙台にて開催されました。今年卒業した大学生から、80代までの総勢59名。本部・関東梅苑会から9名のご来賓も遠路はるばるお越しいただきました。

事業・決算報告が行われ、令和7年度の事業計画、予算案、規約改正、役員改選、が承認されました。

みやぎ梅苑会だより

令和6年度総会・懇親会開催

高校34回卒の鈴木哲氏（元西武ライオンズ）と菅野剛広事務局長の同級生によるトークショーが行われ、普段は聞けない、プロ野球の裏話（地元球団楽天イーグルス・お金 等）で盛り上がりしました。



ソウルオリンピックの銀メダルを持参いただきました

総会資料 出席者名簿は「みやぎ梅苑会オフィシャルホームページ」総会・懇親会にてご覧ください。

令和7年度は、9月5日（金）18:30より開催予定です。100人で校歌を歌うのが悲願です。宮城県にお住まいの方のみならず参加いただける方、大募集中です。同窓生にお声がけをお願いします。

3店舗の運営と、ボードゲームの制作流通に携わっています。

高校時代は合唱部に入り、鶴川敬史先生の下、全国大会上位入賞を3年連続で果たす黄金時代を過ごしました。合唱部で学んだ「伝える技術や熱量」「仲間との達成感」は経営者となった現在でも私を支えています。

部活後に暗くなった屋外でバスケットや、ハモリながら信夫山のトンネルを抜けたり。思えば、モノポリーなどのボードゲームを知ったのは部長の岡田裕貴君の紹介でした。苦楽を共にした仲間とは公私に亘り交流が続いており、振り返ると部活が今の自分を形作っているように思います。

関東梅苑会では、憧れだった合唱部第一次黄金時代の高6回紺野信壽先輩にもお会いでき、高校時代以上に福島高校への愛着を感じています。

沖和磨 54回

私は平成28年度から関東梅苑祭に参加させて頂いており、令和元年度には実行委員長の大任を仰せつかりました。そのご縁で今も実行委員として会に携わらせて頂いております。

これまでの人生を振り返ると、福島に入学できたことが人生最大のターニングポイントであっ

たと思います。福島で出会い、打ち込んだラグビーの日々、優秀な大学に進学したり、スポーツの全国大会で活躍するような素晴らしい同級生や先輩・後輩と過ごした時間は、その後の人生の糧となるたくさんの良い刺激となりました。また、福高入学とともに一度勉学を引退し、在学中に全く勉強をしなかった私の卒業を許可してくださった学年の先生方と校長先生の心の広さは計り知れないものだったと思います（笑）。そうした福高に恩返しをすることが私の使命であり、関東梅苑会として特に現役生や若い卒業生に向けて有意義な企画や支援を行っていきたいと思います。

高橋 咲乃 64回

現在、都内の流通企業に勤めています。関東梅苑会に参加するようになったのは、友人がSNSで会を知り、誘われたのがきっかけです。

高校時代はバスケット部に所属しており、休みもほとんどなく、バスケットの3年間でした。中でも思い出深いのはバスケットで行ったドイツ遠征です。ドイツ人コーチ指導のもと、普段取り入れていないメニューでの練習が新鮮でした。また実際にスポーツを通して、他国の学生と



昨春の司会・高橋咲乃さんと宮本監事

交流できたことが大変貴重な経験になりました。

もう1つ記憶に残っているのは、2年生の時の東日本大震災です。授業中に今まで感じたことのない揺れがあり、全員校庭に避難しました。待機している時も何度も余震があり不安でしたが、仲間がいてとても心強かったです。震災があったことで文化祭も中止になり、寂しかった思いがありますが、楽しかったことも辛かったことも共に過ごしてきた仲間との時間は今も大切な思い出です。

渡邊 歩史 67回

私が福高に入学したのは震災の翌年、2012年でした。校舎は甚大な被害を受け、入学してから2年間は仮設校舎での学校生活を余儀なくされました。しかし、そんな大変な状況を



理事

西村 晃一
（高校28回卒）

第10回土井晩翠先生の作詞した校歌を歌いましょうの会に参加しました

令和6年10月20日、「土井晩翠先生の作詞した校歌を歌いましょうの会」が仙台市立立町小学校体育館で開催されました。平成14年土井晩翠没後50年を機に立町小学校出身者有志により会が発足し、市内9小学校の児童が青葉城址で校歌を披露したのが始まりです。

土井先生の校歌は、全国各地、戦前には、満州の学校も含め300校近くで採用されておりました。

第2回目の会以降は、全国の学校に呼びかけ、2年に一度開催されてきましたが、コロナ禍で5年間中断し、今年度第10回目を迎えました。今回は、現役の小中高生と同窓会の、北海道から群馬県まで12団体が参加しました。本校は、第2回目から出演しており、少数精鋭ですが聞いている児童、生徒たちをオーツと言わせる男声四部合唱で校歌を披露しています。今回は、3月に福高を卒業したばかりの10代から70代まで幅広い参加者を得るとともに、梅苑会本部の芳賀会長さんにもご夫妻で参加頂きました。

披露する際には、校歌は、大正

忘れてしまうほどの強烈な思い出と言え、やはり応援団における活動でした。休団状態になっていた応援団に入団しましたが、応援団のことを知らない校内からの風当たりは強く、正式なデビューを果たすまでの1年間は、学校に行くだけでも精一杯でした。

そうした中、支えになったのは福高のOB・OGの皆さんでした。応援団が活動しているところを見かけるたびに熱い応援の声をいただき、少しずつ校内の理解もいただけるようになり、おかげさまで3年間やり抜くことが出来ました。

OBとなった今、そうして支えていただいた皆さんに恩返しをする思いで毎年、関東梅苑会に参加し、精一杯、壇上で校歌を歌わせていただいています。皆さんも是非同窓会に参加いただき、久々に一緒に校歌を歌いませんか？

小針 優汰 73回

現在、法政大学理工学部に所属する大学生です。これまでに関東梅苑会でゲスト講演の司会やOB会での若手企画（お笑いなど）、会報誌インタビューに携わってきました。関東梅苑会への参加は、私の先輩である太田朝弓さんに会を紹介していた

だったことがきっかけです。

高校生時代を思い返してみると、個性的な先生や博識で含蓄のある同級生が多く、常に刺激を与えられていた生活を送っていました。褒められたものではありませんが、模試の休み時間に友人と抜け出して美術館の近くにある佐川食堂（2020年閉店）でラーメンを食べたのは良い思い出です。

高校時代で最も輝かしい思い出は、3年生時の自主映画制作活動です。当時はコロナウイルスが猛威を振るい従来の梅苑祭が開催できない状況でした。代替案として映画祭が開催されたので、友だちと有志を募り映画を制作したことは、色褪せること無い大切な思い出です。

先輩後輩を問わず、福高の思い出を関東梅苑会で共有しあえることを楽しみにしています。



右から佐藤さん、大学生の小針さん、梅津さん

みやぎ梅苑会の活動は「みやぎ梅苑会オフィシャルホームページ」にてお知らせいたしますのでご確認ください

みやぎ梅苑会
オフィシャル
ホームページ



みやぎ梅苑会

検索

<https://miyagi-baienka.com/>



令和7年度の大学入学共通テストの志願者数は495,171人で、大学入試センター試験時代を含め32年ぶりに50万人を下回った昨年度と同じく2年連続で50万人を下回り、前年比3,257人増であった。この春の高校卒業予定者における共通テスト志願者の割合は(現役志願率)は45.5%で、共通テスト志願者のうちで現役生が占める割合は86.0%で、いずれも過去最高となった。既卒生数今年度は64,974人は7年連続で減少と、近年の受験は「現役生同士の戦い」の度合いが強まっている。受験者数は462,066人で前年比4,458人増であった。科目別別の受験者数は、国公立型の8科目受験で前年比99.7%と同等だったことから、今年度から「情報」が入試科目に追加されたことに伴う負担増の影響は少なかった。一方で、私立大専願が主となる3科目以下の受験者数は前年比97.4%となり、減少幅こそ緩やかになったが、私立専願者の共通テスト離れは続いている。

今年で5回目となった共通テストが昨年までと大きく異なるのは、「新課程」での実施だったという点にある。昨年までは、センター試験から共通テストへと形式は変わったものの、あくまで旧課程(教科書の内容は変わらない状態)での実施だった。今年は新課程ということで、テストの内容そのものがどこまで変わるか注目されたが、初年度はどの科目でも「様子見」の感があり、昨年度までの共通テストと大きな違いはなかったと言える。しかし、英語では昨年に比べて語彙数が激減して易化した一方で、化学はセンター1試験時代を含めても過去最低の全国平均点となるなど、科目間での難易にバラつきが見られ、今後数年間は難易調整から平均点の乱高下が続く可能性がある。

進学展望

進路希望の動向

どの教科においても問題の長文化に対応した「速読力」と、限られた時間内でも必要な情報を適切に処理する「精読力」が求められ、それらの「読解力」の差が上位層と下位層の「二極化」をもたらすという点に関しては、今後も続くだろう。

全国的な出願傾向としては、国公立大が堅調な人気を示している。学部系統別では「理・高文低」の傾向が続いており、医学部・歯学部・薬学部を中心とした実学志向や、AI時代を受けて情報系の人気が続いている。コロナ禍から継続して語学・国際系は低調で、教育系も引き続き低調である。大学別では、東北大学には、東北地区のみならず関東・東海地方などからも志願者が、特に理系学部で増加している。「指定国立10大学」に選ばれ、国内で唯一「国際卓越研究大学」の指定を受けた東北大学は、今後もしばらく志願者が集まる傾向が続きそうである。本校の志願動向としては、国立大学では指定国立10大学をはじめとする難関大学や地域拠点大学への出願は、例年並みであった(詳細は「入試出願状況」参照)。東北大への出願は、総合型選抜への出願が抑制的であったことから過去3年間で最小となった。東京大学への学校推薦型選抜に出願した1名は、県内唯一となる合格を決めており、3年連続での推薦合格者輩出となった。県立医科大学に関しては、総合型選抜で2名、学校推薦型選抜で9名の計11名がすでに合格を決めている。今年度の卒業学年から始まった「医学コース事業」では、県立医科大学と連携した様々な取り組みを行った。また、本校OBOGのお力添えを賜り、福島市医師会の全面協力の下、市内6病院と連携した模擬実習や座談会などを企画・運営させていただいている。こうしたご支援のおかげによる生徒の活動の充実が、進路実現への追い風になっているのは間違いない。

「二人一人の第一志望が難関大学」を胸に、本校生が自分らしく進路を実現させる「梅桜桃李」のごく、今年も全国津々浦々に美しい花を咲かせてもらいたい。

入試出願状況

(現校の延べ数、学校推薦型・総合型選抜を含む) 2月12日現在

項	大学名	令和6年	令和5年	令和4年
国公立大	北海道大	10	3	11
	弘前大	3	5	1
	岩手大	3	3	5
	東北大	63	89	80
	宮城大	11	13	8
	秋田大	10	2	3
	山形大	22	22	15
	福島大	45	56	80
	茨城大	12	20	2
	筑波大	14	15	14
	宇都宮大	6	11	4
	埼玉大	23	20	20
	千葉大	31	25	19
	東京大	7	11	6
	京外大	3	1	2
	京海大	2	2	3
	京芸大	10	9	11
	京工大	4	3	4
	一橋大	3	2	4
	横浜国立大	12	9	10
	新潟大	51	28	36
	金沢大	1	1	2
	京都大	3	0	1
	その他の他	39	27	42
	国立大・小計	388	377	383
私立大	県立医科大	35	39	50
	県立会津大	5	3	2
	高崎経済大	9	8	11
	東京都立大	3	7	3
	その他の他	26	32	28
	公立大・小計	78	89	94
	合	466	466	477
	東北学院大	23	24	52
	青山学院大	19	8	15
	慶應義塾大	12	10	8
	上智大	5	5	3
	中央大	42	67	47
	津田塾大	1	1	10
	東京理科大学	27	20	27
	法政大	76	62	48
	明治大	70	45	40
	立教大	39	26	25
	早稲田大	35	25	46
	その他の他	342	312	332
	合	691	605	653

※一昨年度まで、本紙の出願状況の数値には、学校推薦型選抜および総合型選抜での出願数を含めていませんでしたが、昨今の入試動向の変化を踏まえて、今年度からはそれらを含む数値での記載に変更しております。

大学合格者数 (過年度卒を含む、私立大は延べ人数)

※令和3年度から7クラス。

項	大学名	令和5年	令和4年	令和3年
国公立大	北海道大	2	4	3
	弘前大	4	0	0
	岩手大	0	4	4
	東北大	34	32	32
	宮城大	7	5	8
	秋田大	2	1	2
	山形大	9	8	12
	福島大	20	35	17
	茨城大	8	1	3
	筑波大	7	5	2
	宇都宮大	3	3	2
	埼玉大	7	9	10
	千葉大	8	2	7
	東京大	5	4	2
	京外大	0	1	0
	京海大	0	1	1
	京芸大	3	5	2
	京工大	2	3	1
	一橋大	0	1	1
	横浜国立大	4	8	2
	新潟大	13	24	21
	金沢大	1	2	0
	京都大	1	0	1
	その他の他	10	14	13
	国立大・小計	150	172	146
私立大	県立医科大	20	24	21
	県立会津大	2	2	1
	高崎経済大	2	2	4
	東京都立大	2	2	5
	その他の他	16	11	6
	公立大・小計	42	41	37
	合	192	213	183
私立大	東北学院大	25	55	27
	青山学院大	1	5	5
	慶應義塾大	4	8	8
	上智大	1	3	1
	中央大	24	35	27
	津田塾大	1	7	1
	東京理科大学	10	22	21
	法政大	24	23	24
	明治大	10	24	16
	立教大	10	11	4
	早稲田大	10	15	9
	その他の他	250	221	219
	合	370	429	362
準大学(省庁大学校)		0	1	2
	短期大学	1	2	4
	短大	2	2	2
	就職	0	0	0



福島高等学校長 丹野 純一

急激な人口減少、気候変動、国際紛争など地球規模の危機、AIの進化など、変化の激しく予測不可能な時代を生きる福高生には、他者と共に豊かで幸せな人生を切り拓いていく力と、それを可能にする自由、公正、民主的で持続可能な誰一人取り残さない社会を形成する力の育成が求められます。特に、長い復興と創生の途上にある福島にとっては、そうした市民と、変革を牽引するリーダーを育てる必要があります。福高生の中からこそ、まっとうなエリートや何か特定の分野でずば抜けた人、どんな道であれ自分の生き方に軸を持った人が生まれてきてほしいと思っています。そして、福高にはそうした人間が育つ環境があると考えています。

第一に、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)です。福高のSSHは18年目にもなり全国でも有数のサイエンススクールです。正解のない課題にあふれる世界で、問いを立て、仮説を立て、実験や調査により検証し、課題解決に向けて多様な人と協働するという体験を全員がしています。何が真実か見

えにくく、対立と分断が進む世界にあって、これはすばらしいことです。

第二に、リベラルゼミをはじめとした独自の取り組みにより、この世界で自由に生きるための学問、生き方を学んでいます。今年の研修旅行では、全国最年少の市長として有名な芦屋市の高島市長の講演会を宿で夜に開催しました。ハーバードでの話のほか、東日本大震災時に難高校生徒だった高島さんが福島高校を訪れた時に、復興へ向けてがんばる同年代の福高生の姿を目にし、大変大きな影響を受けた。その後市長を志すようになったとの感動的なお話で、講演会が終わった後も生徒たちの質問が1時間と続き、中には泣きながら市長と話す生徒もいたとのこと、得がたい学びを得ました。

第三に、梅苑祭、スポーツ大会、歩こう会、部活、応援など、人間性を豊かにする場がたくさんあるということです。将来、生徒たちは、異なる文化、言語、コンテクストをもつ多様な人とも協働しなければなりません。そこで必要になるのは、多様な人との違いを生かしながら、共

に生きるコミュニケーション力です。部活動や梅苑祭などを通してそうした力を身につけています。

第四に、福島ならではのアドバンテージがあるということです。「福島」はいまや全世界共通語です。これを生かさない手はありません。また、首都圏の一部の大学などでは、関東の私立の中高一貫生が成員の多くを占める中、地方の公立高校で、先にあげたような様々な体験をし放題してきた福高生は「多様性」の観点から大いに意義があるのではないのでしょうか。

部活動成績

令和6年度 部活動成績 (主に東北大会以上を掲載しております。)

各部活とも、それぞれの目標に向けて、積極的に頑張っています。

- 【陸上競技部】 ●第29回東北高等学校新人陸上競技選手権大会…………男子1500m・男子5000m／氏家拓海
●第31回東北春季ジュニアテニス大会…………女子U18シングルス／鳴海春佳
●第65回東北高等学校テニス選手権大会…………男子団体／橋川英俊・齋藤大輝・舟山泰生・服部翼・松野恵斗
…………女子シングルス／鳴海春佳
- 【剣道部】 ●令和6年度全国高等学校総合体育大会テニス選手権大会…………女子シングルス／鳴海春佳
●2024年度全日本ジュニアテニス選手権大会…………女子U18シングルス／鳴海春佳
●第37回東北高等学校剣道選抜優勝大会…………男子団体／菅野恭太郎・小林優仁・菅井大志・遠藤誠大・佐々木晴向・平井志武・志村慶吾・菊野大和
…………先鋒・菅井大志
●第73回全日本都道府県対抗剣道優勝大会…………男子団体／菅野恭太郎・小林優仁・菅井大志・遠藤誠大・佐々木晴向・平井志武・志村慶吾
●第34回全国高等学校剣道選抜大会…………男子団体・個人／高橋侑李・曲山雄翔・渡邊祥平・紺野悠惺
●第42回東北高等学校アーチェリー選手権大会…………女子個人／藤田香濃・矢部ひかり
- 【アーチェリー部】 ●第51回全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技…………女子個人／藤田香濃
●第39回東北高等学校アーチェリー選抜大会…………男子団体／高橋侑李・渡邊祥平・渡邊恵翔・近内俊介
…………男子個人／高橋侑李
…………女子個人／藤田香濃・矢部ひかり
- 【バスケットボール部】 ●第78回国民スポーツ大会バスケットボール競技…………少年男子出場／亀岡朝陽
【フェンシング】 ●令和6年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技…………男子フルレ／和田大世
【将棋部】 ●第60回全国高等学校将棋選手権大会…………男子個人／櫻井亮人
●第25回東北地区高等学校将棋新人大会…………男子個人／櫻井亮人・渡邊一志
●第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会…………男子個人／櫻井亮人・渡邊一志
●第48回全国高等学校総合文化祭囲碁部門…………団体／山上英里子・橋川英俊・松野恵斗
…………女子個人／橋浦菜々子
…………男子団体／冨家正宏・橋川英俊・松野恵斗
…………女子団体／山上英里子・橋浦菜々子・山内日菜子
…………男子個人／橋川英俊・松野恵斗
…………女子個人／山上英里子・橋浦菜々子
…………県対抗戦／女子団体／橋浦菜々子・山内日菜子
…………男子団体／松野恵斗
- 【囲碁部】 ●第48回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会…………優秀賞
…………ポスター発表賞／阿部のどか・菊池梨央奈・猪狩治喜・高野由規・遠藤涼馬・渡邊優珂
- 【管弦楽部】 ●令和6年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会…………東海林航太・新保恵太・谷代由希・嶋原月那・白坂柊弥・大谷温樹・近野曜星
【SS部】 ●令和6年度科学の甲子園全国大会…………最優秀賞(2025かがわ総文出場)／人見太陽・一條孝介・谷代由希・嶋原月那・嶋原佳乃子・柳沼里花
●第29回全国高校新聞年紙面審査賞…………入賞



会費等の納入方法・金額が変わります！

会費等の納入方法がコンビニ振込に変わります。取り扱い可能な店舗は同封の振り込み用紙裏面をご確認ください。誠に勝手ながら今年度よりお振込み金額は会費・後援会費を合わせて5,000円といたします。また、追加でご協力いただける方は同封の郵便振り込み用紙をご使用ください(任意)。納入方法は、令和6年度「会費納入方法プロジェクトチーム」の提案(本誌会長挨拶参照)を基に、今回より変更させていただきました。詳細内容はこちらのQRコードからも確認できます。



会員情報の変更方法が変わります！

これまでハガキにて承っておりました住所等登録情報の変更は廃止となります。3月1日以降は、福島高校同窓会ホームページ上で変更の手続きができるようになります。ご不明な点は同窓会事務局へお電話にてお問い合わせください。会員情報は、こちらのQRコードからも変更できます。



令和6年度同窓会費のご協力ありがとうございました！

令和6年1月～12月期に会費等を納入いただいた方のお名前を福島高校同窓会ホームページに掲載いたしました。ご協力ありがとうございました(名簿記載に同意されなかった方、お名前を確認できなかった方は掲載しておりません)。納入会員名簿は、同期の方々を思い出していただき、併せて納入失念にお気づきいただけるようにとの趣旨で掲載させていただきます。この名簿は会員以外へお渡しになりませんよう、御留意願います。納入会員名簿はこちらのQRコードから御確認いただけます。



寄贈図書紹介(令和6年1月～12月)について

今年も多くの方々から本校図書館へ寄贈図書をいただきました。福島高校図書館の充実に御協力いただき、ありがとうございました。
寄贈図書は、同窓会ホームページ上で紹介させていただいております。

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

令和6年度 同窓会役員

会 長	芳賀 裕	高22
副会長	みやぎ梅苑会会長 落合 敏伸	高19
副会長	重富 秀一	高21
副会長	関東梅苑会会長 箱崎 一彦	高23
副会長	渋谷 修一	高24
副会長	丹治 正博	高26
副会長	芳見 弘一	高28
常任理事	磯貝 健郎	高13
常任理事	富田 建一郎	高16
常任理事	熊坂 英二	高18
常任理事	佐藤 信雄	高21
常任理事	大野 順道	高22
常任理事	穂積 寿男	高23
常任理事	関東梅苑会副会長 塚原 真司	高24
常任理事	石原 裕人	高24
常任理事	後藤 忠久	高26
常任理事	阿部 芳和	高27
常任理事	今関 達也	高28
監 事	尾形 克彦	高22
監 事	長谷川 敏朗	高28

理 事	渡辺 博美	高17
理 事	横山 純	高17
理 事	木戸 孝志	高17
理 事	小林 勇一	高17
理 事	勢島 昇	高18
理 事	斎藤 高紀	高18
理 事	花井 宣明	高20
理 事	伊藤 幹夫	高20
理 事	網代 智明	高21
理 事	佐々木 孝司	高21
理 事	中田 茂実	高21
理 事	安藤 正道	高21
理 事	黒澤 信雄	高22
理 事	木村 豊	高22
理 事	二階堂 保夫	高22
理 事	江口 淳	高23
理 事	鈴木 浩一	高23
理 事	高荒 俊勝	高24
理 事	尾形 省二	高24
理 事	高橋 通夫	高25
理 事	土屋 牧雄	高26
理 事	武藤 進	高26

理 事	矢森 真人	高26
理 事	鈴木 真一	高27
理 事	片平 淳	高28
理 事	五十嵐 俊道	高28
理 事	高荒 昌展	高28
理 事	加藤 勇治	高29
理 事	金子 弘保	高29
理 事	土田 淳	高29
理 事	加藤 孝一	高30
理 事	関東梅苑会事務局長 島田 久	高31
理 事	八子 直樹	高31
理 事	大和田 利明	高31
理 事	太田 英晴	高31
理 事	樋口 幸一	高32
理 事	藤野 貴	高32
理 事	篠木 雄司	高33
理 事	吉成 健二	高33
理 事	関根 英樹	高33
理 事	渡辺 健二	高33
理 事	手塚 徹	高34
理 事	みやぎ梅苑会事務局長 菅野 剛広	高34

理 事	鈴木 宏幸	高36
理 事	佐藤 昭憲	高36
理 事	阿久津 順二	高37
理 事	黒森 陽一	高37
理 事	板垣 隆	高37
理 事	三浦 康伸	高39
理 事	日下 直哉	高39
理 事	佐藤 智宏	高39
理 事	渡辺 勝久	高42
理 事	目黒 貴裕	高42
理 事	引地 孝之	高44
理 事	吉田 大樹	高45
理 事	内池 崇	高45
理 事	中尾 勉	高46
理 事	本多修一朗	高47
理 事	佐藤 永之	高48
理 事	杉本 渉	高48
理 事	佐藤 充孝	高50
理 事	山尾 祥大	高51
理 事	遠藤 武義	高52
理 事	伊藤 大地	高52

令和6年度 母校出身校長

校長 丹野 純一	高37
-------------	-----

令和6年度 事務局員

国分 聡	高33
堀江 誠克	高35
斎藤 実	高37
佐藤 達男	高37
中原 勝	高41
渡辺 洋生	高43
根本 浩之	高46
富良謝 和信	高48
菅野 陽介	高54
渡邊 優輔	高54
菅野 祐哉	高56
香野 学	高56

同窓会事務局(福島高校内)
〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392
<https://www.baienkaikai.org>

みやぎ梅苑会事務局
〒981-3134 仙台市泉区桂2-15-12
TEL.080-1825-5205(武藤)
<https://miyagi-baienkaikai.com>

関東梅苑会事務局
〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358(島田 久)
<https://www.kantobaienkaikai.ne.jp>